

令和5年11月28日
農 林 水 産 部

報 道 機 関 各 位

令和5年度山形県ベストアグリ賞授与式の開催について

このことについて、下記のとおり開催しますので取材くださるようお願いいたします。

記

1 日 時 令和5年12月5日（火）午前11時30分～正午

2 場 所 山形県庁5階 502会議室

3 受賞者（8者）

（1）農林水産大臣賞・山形県ベストアグリ賞（法人1者）

（2）東北農政局長賞・山形県ベストアグリ賞（団体1者）

（3）山形県ベストアグリ賞（個人2者、法人3者、団体1者）

※各受賞者の概要は、別紙のとおり

4 山形県ベストアグリ賞について

山形県優秀農家発表会（昭和47年～昭和56年）、山形県農業者実践成果発表会（昭和57年～平成3年）を拡大継承して、平成4年度に創設された。

地域の環境を活かし優れた経営等を実践している先駆的な農業者等を表彰し、その取組みを県内に広く紹介し普及することで、本県農業の振興・発展を図ることを目的とする。

特に優秀と認められた受賞者のうち、第1位には「農林水産大臣賞」、第2位には「東北農政局長賞」が授与される。

（昭和47年以来、令和4年度までの受賞者数は、個人団体合せて467名）

【問い合わせ先】

農林水産部農業技術環境課

副主幹（兼）課長補佐 遠藤 TEL 023-630-2446

[報道監] 農林水産部次長 齋藤

(別紙)

令和5年度 山形県ベストアグリ賞受賞者の概要

(敬称略)

農林水産大臣賞・山形県ベストアグリ賞

株式会社黒澤ファーム 南陽市

- ・環境に配慮しながら良食味にこだわった米づくりを行うとともに、先進技術を積極的に取り入れた農業経営を行っており、収量・食味の高位平準化に取り組んでいる。集荷団体を経由しない独自の販売先を持ち、高価格帯で取引している。
- ・平成18年に米の海外輸出を開始し、現在は年間約26tを香港、シンガポールに輸出している。平成29年には精米部門で全国初となるASIAGAPの認証を取得した。
- ・「米・食味分析鑑定コンクール」において平成21年から6年連続で受賞するなど、良食味米生産者としての評価を確立している。
- ・地域の環境保全活動や地元小学校での食育活動も実践している。

東北農政局長賞・山形県ベストアグリ賞

J A おいしいものがみ北部酒米研究会「ゆびきりげんまん」 新庄市

- ・会員はすべて認定農業者で、水稻の栽培面積が全員5ha以上と規模が大きく、園芸作物や繁殖牛を組み合わせた複合経営を行っている。また、30代から60代前半と若く、地域の中心経営体である。
- ・栽培管理の徹底により、年々品質が向上し、県酒造適性米生産振興対策協議会が主催する酒米の里づくりフォーラム「優良酒米コンテスト」では、平成26年度からほぼ毎年表彰を受けるなど、高い評価を得ている。令和4年度の同コンテスト「雪女神」部門で県知事賞を受賞し、県産酒の最高峰である『山形讃香』の原料米に選ばれた。
- ・酒米は主食用米に比べ高値であるため収益性が高く、農業所得の安定確保・向上に寄与している。

山形県ベストアグリ賞

(1) 蔵王花卉生産組合 上山市

- ・組合員のは場が平坦地から中山間地に位置しており、適地適作を基本とした多品目を栽培している。「蔵王の花」のブランド名で販売し、産地形成を図っている。
- ・栽培技術向上、高品質生産を目指し、品目ごとの園地巡回、全体での研修会などを実施している。花き市場では高い評価を得ており、各種花き品評会においても、農林水産大臣賞や山形県知事賞を受賞している。
- ・多くの経営体で後継者が就農し、新規参入もあることから組合員の平均年齢は47歳と若く、産地を牽引する力となっている。

(2) 株式会社金子農園 西川町

- ・山間地の冷涼な気候を活かした大規模な花木生産に取り組み、「スノーボール」は、ハウスを利用した促成栽培と、積雪を利用した抑制栽培を組み合わせ、出荷期間を拡大している。気候に即した栽培管理技術の検討を重ね、更なる品質の向上に取り組んでいる。
- ・西川町啓翁桜生産組合の組合長、「西川町啓翁桜大規模団地化推進プロジェクト」園芸団地化支援チームのリーダーを務め、西川町の「啓翁桜」の生産を牽引している。
- ・西川町農業担い手育成協議会の会員として、農業体験や農業研修生の受け入れ、新規就農者の確保・育成に取り組んでいる。

(3) 高橋 ^{ひさし} 央 尾花沢市

- ・農地集積による規模拡大で、個人経営としては県内でもトップクラスの大規模水田経営を行っている。自動操舵システムやドローンなどのスマート農業機械を導入し、作業の効率化を図っている。
- ・尾花沢市寺内地区は中山間地で気温の日較差が大きいことから、酒米を経営の主力とし、循環型乾燥貯蔵装置を使い酒米を均一に乾燥することで高品質を維持している。地元農協の酒米生産部会長を務め部会内に研究会を立ち上げ、やまがたGAP 認証を取得し、安全・安心な生産に取り組むなどして、県内の酒蔵から高く評価されている。
- ・酒米は「出羽の里」、「出羽燦々」、「雪女神」を栽培し、平成26年度、平成27年度の優良酒米コンテスト「出羽の里」部門で県知事賞を受賞している。

(4) 有限会社アグリメントなか 飯豊町

- ・飯豊町中地区の中地区大豆会を母体として、平成15年3月に法人を設立した。町内における集落営農組織の先駆者として、地域の農地保全に大きく貢献している。
- ・地域の約85haの農地を集積し、ICT対応コンバインやドローンの導入などスマート農業による省力化を図りながら高品質米の生産に取り組んでいる。
- ・地場産小麦パンを町内学校給食に提供するため、新たに小麦を栽培するなど食育の一環を担っている。また、飼料価格高騰に鑑み、令和元年から子実用とうもろこしの実証栽培に取り組むなど、耕畜連携による持続可能な地域農業の構築発展に貢献している。

(5) 有限会社いとうファーム 鶴岡市

- ・「だだちゃ豆」を約7ha栽培し、生産量の8割を直接販売している。種子を全量自家採種し良食味種子を継承するとともに、土づくりにこだわり、高位安定生産に取り組んでいる。
- ・主要品目の水稻、えだまめ、なめこの売上が同じ割合になるような生産計画で、1部門が気候や価格変動の影響を受けても、他の2部門で経営を維持する仕組みを構築している。
- ・平成15年から、自ら開発した「大豆栽培キット」を活用して、首都圏の小学校を対象に、大豆の播種から加工・実食までを通して命の大切さを伝える出前授業を行っている。

(6) 土田 はるお たみこ 治夫・民子 酒田市

- ・地域の水田を集積して規模拡大を実現し、米の食味と品質向上に力を入れて、顧客の信頼確保と拡大に努めている。
- ・自ら米の販売に取り組み、顧客に毎月「土田農場だより」を送付する等、リピーターの確保に努めてきた。にんにくの契約栽培を行い、経営の安定化を図っている。
- ・治夫氏は指導農業士として、農林大学校生の研修受入れ、新規就農者への助言指導等、地域の担い手育成に尽力してきた。30年間、地元小学校で稲作授業の指導を努め、食育活動にも尽力している。